



## ごあいさつ

平成16年6月

理事長 長谷川良男

皆様には平素より新発田信用金庫に対しまして、格別のご愛顧、お引立てを賜り、誠にありがたく心より御礼申し上げます。

当金庫は、大正13年の創業以来一貫して地域社会の反映に貢献することを基本理念として、地域金融機関として地域との共存共栄を使命に徹して参りました。本年も当金庫に対する皆様のご理解を深めて頂くとともに、今後一層のご愛顧を願いたく本誌「しんきんレポート2004」を作成いたしました。

平成15年度の当初は、イラク戦争勃発や新型肺炎の流行などの影響から先行き不透明感が一段と高まりました。国内経済も経済報告が「おおむね横ばい」から「変化の兆し」と徐々に上方修正が続き、着実な回復の兆しが見え始めました。しかし、回復基調にあるとはいうものの長いデフレ経済で疲弊した地方経済と中小企業には立ち直りの兆しは見えておらず、また、リストラの進展や雇用形態の変化に加え、税・社会保障負担の増加から、個人の可処分所得の減少は続いており個人消費に回復の兆しは見えませんでした。

当金庫は地域金融機関として使命を果たすべく、資産の健全化を図る目的から、債権売却及び償却による不良債権処理の実施と問題債権に対してあらたな引当を行い、また、自己資本の透明性を図る為、繰延税金資産の取り崩しを実施いたしましたことにより、平成15年度は7億78百万円の赤字決算となりました。

しかしながら、当金庫は前述の不良債権処理及び問題債権への引当対処をしてなお、自己資本比率は11.55%と極めて高率であり、国内基準とされる4%を大幅に上回っております。

この様に厳しい経済環境の中でも、極めて高い健全性を維持できますことは、ひとえに皆様のご支援・ご協力の賜でありまして、あらためて厚く御礼を申し上げます。

金庫創業80周年となる平成16年度は、昨年度より新たに取り組みを開始した地域貢献活動の継続、推進する一方、地域金融機関としての使命のもとに“地域の皆様に信頼されるしんきん”でありつづけるよう、健全経営のもとに、一層の努力をして参る所存でありますので、引き続き格別のご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げますと共に、皆様のご健勝とご繁栄を心からお祈りし、ご挨拶といたします。

2004  
SHIBATA SHINKIN  
DISCLOSURE

# しんきん レポート